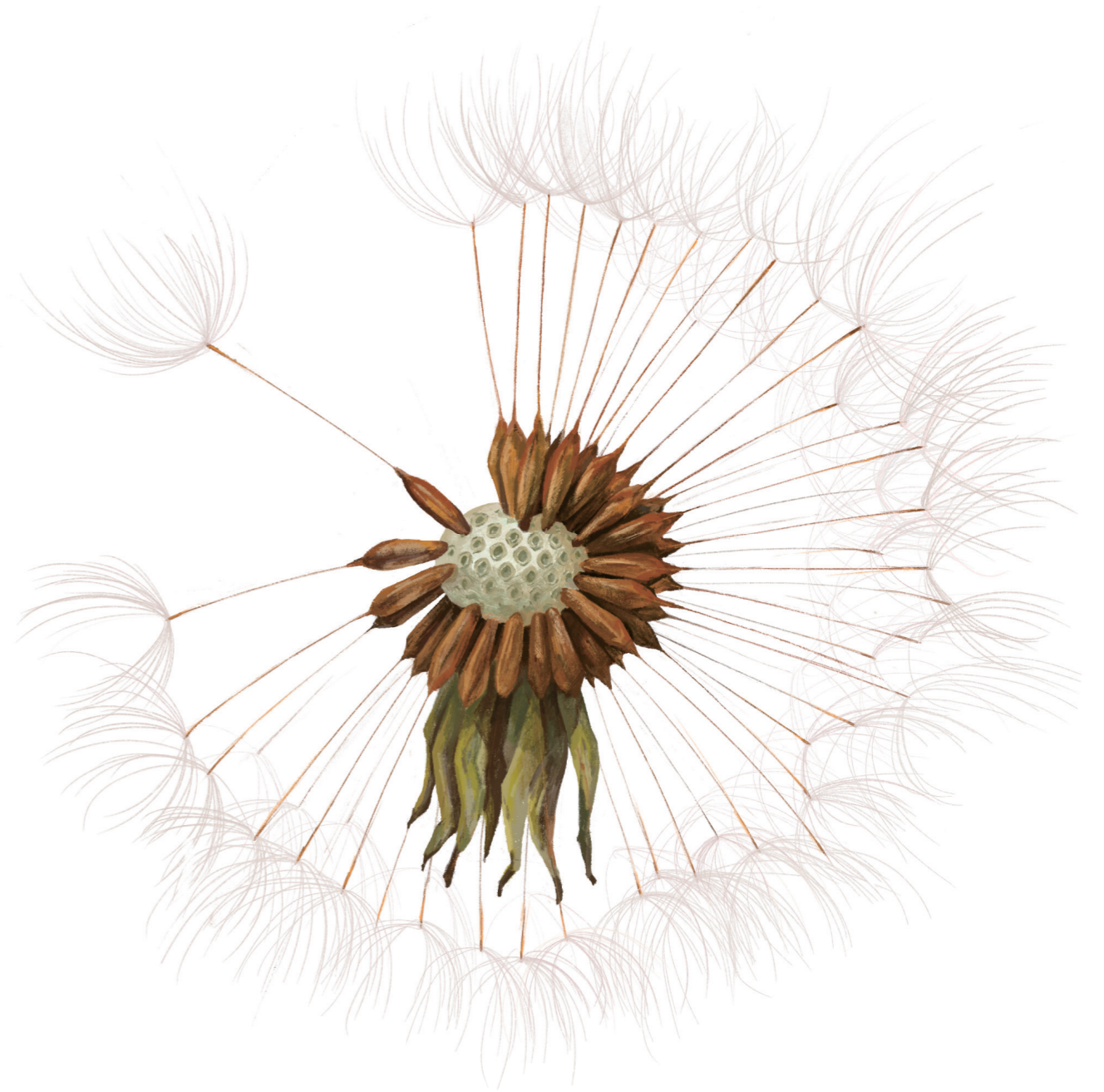


ZENKOREN

全広連

2026 SPRING Vol.1117



全広連

2026年4月5日発行／1、4、7、10月の5日発行／通巻1117号／昭和39年2月12日第3種郵便物認可
発行／公益社団法人全日本広告連盟 〒104-0061 東京都中央区銀座5丁目14番5号 光澤堂GINZAビル3F

電話03-3569-3566

定価450円(購読料は全費に含む)
www.ad-zenkoren.org

Special Report

現代も輝く山名先生のエスプリ

～「全広連日本宣伝賞 山名賞」のもととなった、デザイナー 山名文夫氏とは～



公益社団法人
全日本広告連盟
JAPAN ADVERTISING FEDERATION

CONTENTS

- 2 SPECIAL REPORT 1 現代も輝く山名先生のエスプリ
～「全広連日本宣伝賞 山名賞」のもととなった、デザイナー 山名文夫氏とは～
- 4 SPECIAL REPORT 2 Young Lotus Workshop国内選考
～1/121チームを目指して～
- 7 …… 各地広告協会の動き (秋田・山形・大阪)
- 8 …… CLIP BOARD

COVER ILLUSTRATOR

2026年は、Young Lotus Workshop 2025日本代表チームに表紙をデザインしていただいています。コンセプトとともに楽しみください。

アイデアを生み出す上で大切なのは、
発想に至るまでの「思考の姿勢」。
時代を超え受け継がれてきた
広告クリエイティブの考え方を、
季節のモチーフに重ねてデザインしました。

春のモチーフはたんぽぽ。
風に乗って、
綿毛が空へと飛び立つように、
アイデアも遠くへと飛ばしてこそ、
まだ見ぬ景色に
出会うことができます。



神戸 弥宙
株電通
●コピーライター

高校卒業後、
カンボジアの工科大学へ進学。
自動運転車の開発、
人工衛星を用いたAI画像処理の研究を行う。
2023年入社。
囲碁歴20年、全国大会5位入賞。



野口 柁晴
株電通
●コミュニケーション
クリエイター
●アートディレクター

2000年生まれ。
東京藝術大学デザイン科を
主席で卒業後、株電通入社。
Future Creative Center所属。
アイデア×ビジュアルイズで、
遊び心のある体験設計を行う。

現代も輝く山名先生のエスプリ

～「全広連日本宣伝賞 山名賞」のもととなった、
デザイナー 山名文夫氏とは～

山名文夫氏(成城の自宅アトリエにて 1950)



天野幾雄（「全広連日本宣伝賞 山名賞」選考委員）

5月に開催する全広連静岡大会で第14回「全広連日本宣伝賞 山名賞」が贈賞される。これを機に、賞の冠名となった山名文夫氏について同賞選考委員の天野幾雄氏にお話いただいた。

日本のグラフィックデザインを築いた先駆者

山名文夫先生は、2027年に生誕130年を迎える。戦前から河野鷹思、原弘、山六郎らと並び、デザイナーとして活動し、戦中・戦後を通して日本のグラフィックデザイン界の基礎づくりに尽力した人物である。そのスタイルは繊細でありながら凛とした強さを内に秘め、リリカルな抒情をたたえつつ、構成の厳しさを持つイラストレーションとデザインが特徴である。オープン・ビーズリー、アルフォンス・ミュシャをはじめとするアール・ヌーヴォーの作家の影響を受けながらも、やがて「山名スタイル」と呼ばれる、美しい線による独自の描写を完成させた。

イラストレーターとしての出発点

山名先生がイラストレーターとしてスタートしたのは、1923年に大阪のプラトン社に入社した時である。プラトン社で山六郎からイラストレーションや漢字のレタリングを学んだ。その後、1932年に報道写真家である名取洋之助が主宰する日本工房に参加し、対外宣伝グラフ誌『NIPPON』の編集に河野鷹思らとともに携わることになる。ここで写真のトリミング、編集レイアウト、欧文レタリングなど、名取がドイツで学んだ前衛的な技法を習得した。

多彩な分野で発揮された才能

その後、山名先生は、アートディレクション、イラスト

レーション、グラフィックデザイン、レタリング、挿画、装幀、油彩画、詩作、児童文学など多くの分野で才能を発揮した。また、日本の重要なデザイン運動の先頭に立ち指導力を発揮するとともに、自ら体験した商業美術の歴史をわかりやすく解説・編集した功績も大きいものである。教育者としても、多摩美術大学や日本デザイナー学院で教鞭を執った。さらに1951年には日本宣伝美術会(日宣美)、1952年には東京アートディレクターズクラブ(東京ADC)の創立に尽力するなど、日本のデザイン界の発展に大きく寄与した。山名先生をなくしては、今日の日本のデザイン史を語ることはできないのである。

資生堂と42年 — 唐草文様への挑戦

生涯現役を貫いた山名先生の創作活動の中で、長い時間を費やしたのが資生堂での仕事である。第一期(1929～1932年)、第二期(1936～1943年)、戦後の第三期(1948～1980年)と、計42年間にわたり、同社のデザイナー、イラストレーター、後進の指導者として活躍した。資生堂での試練の一つが、唐草文様への取り組みであった。唐草は同社の福原信三社長が資生堂デザインの核に据えたモチーフであり、「唐草文様は表現手段の要素としてではなく、資生堂のポリシーとして精神的なものまで高められた存在である」と述べている。山名先生は、この唐草を基本から学ぶことに苦勞した。しかし、アール・ヌーヴォーの植物模様と西洋唐草の曲線には基本的に共通する要素があり、やがて山名スタイルの線描が広告や商品デザインの中で生き生きと表現されるようになった。1951年に山名先生がペンで描いた唐草文様は、後に資生堂ドルックス化粧品の原案となった。(記事の最後をご覧ください) 山名先生の唐草に対する探究心は並々ならぬもので、ドルックス

のリニューアルデザインを仕上げた後から約20年後の1970年、初めてヨーロッパ旅行に出かけた時には、唐草の根源を求めてレバノンまで足を伸ばし、ペイルート近郊のバルベックにある古代ローマ遺跡を訪れている。さらに、そこで撮影した写真に説明文を添えた小冊子を制作し、2年後には唐草のイラスト作品集『唐草幻像』を私家版として出版した。山名先生は西洋との出会いを大切に、西洋の女性像を流麗な線描で数多く描いた。これほど繊細な線のイラストをフリーハンドで描く場合、通常はホワイト修正が入るものであるが、山名先生の原画にはそうした痕跡がほとんど見られない。頭の中で思い描いたイメージが、そのまま腕に降りてくるかのように、心を込めて一気に描いていたのではないかとと思われる。

晩年の著作『体験的デザイン史』

晩年の著作『体験的デザイン史』(ダヴィッド社1976年、【新装復刻版】誠文堂新光社2015年)は、山名先生の足跡をたどるうえで最も重要な文献である。同書は、1955年から足掛け9年にわたり様々な雑誌に連載された記事を、山名先生自身が再編集した約500ページに及ぶ大作である。そこには、竹久夢二やオープン・ビーズリーの描く神秘的な女性像に惹かれた少年時代、画家を志した画塾生時代、デザインの世界に目覚めたプラトン社での仕事、そして「もっとも張り合いのある勉強の時代」と記している日本工房での仕事などが語られている。資生堂以外の仕事についても触れられており、広く知られる資生堂の「山名スタイル」の背景を知ることができる。(「日本のデザイナーアーカイブ実態調査2022報告書」より)

人柄に宿るデザイン精神

山名先生は、繊細なイラストから想像される印象とは異なり、大柄でがっしりとした体格の人物であった。仕事には厳しい一方で、人に対する細やかな気配りを忘れない方であった。その人柄と精神は、今なお多くのクリエイターに受け継がれている。現代においても、山名先生のエスプリは輝き続けているのである。

「全広連日本宣伝賞 山名賞」

山名文夫先生が83歳で逝去された1980年、旧「日本宣伝賞 山名賞」が制定された。その後、2013年に全広連が顕彰事業を継承し、現在の「全広連日本宣伝賞 山名賞」となった。旧「日本宣伝賞 山名賞」の第1回受賞者である永井一正氏をはじめ、これまで46名の方々を受賞している。選考基準は、「クリエイターとして長年にわたり広告を通じて広告の社会的使命の促進に寄与し、広告界の向上・発展に尽くした個人」である。有識者からなる選考委員会を設置し、選考委員会規定に定める手続きと基準に基づいて受賞者を選考し、毎年1名のクリエイターに贈賞している。

第14回「全広連日本宣伝賞 山名賞」には石岡怜子氏(石岡怜子デザインオフィス主宰・アートディレクター)が決定しています。

執筆者プロフィール

天野幾雄氏

アートディレクター/グラフィックデザイナー
1965年、東京藝術大学美術学部卒。1966年、(株)資生堂宣伝部入社。役員待遇宣伝制作室長、宣伝部顧問を歴任。
現在、天野幾雄クリエイティブ・スタジオInc.代表。



「資生堂ドルックス化粧品」シンボルパターン 1951年

私家版作品集『PROFILE』よりイラストレーション 1973年

資生堂企業広告「私の美人像」シリーズ <新聞>イラストレーション 1979年

※山名氏、3作品写真=資生堂企業資料館蔵

Young Lotus Workshop 国内選考

～1/121チームを目指して～

国内選考 審査員 <敬称略・順不同>	審査員長—鏡明 (株ドリル)
	審査員—佐々木康晴 (株電通グループ) 佐藤雄介 (株電通) 小山真実 (株電通) 木村健太郎 (株博報堂) 岡村実玲 (株博報堂) 細川万理 (株ADKマーケティング・ソリューションズ)



鏡審査員長(左)と日本代表チームの2人

各国から1チームが参加する 「Young Lotus Workshop」

アジア太平洋の各国代表の30歳以下のクリエイターが、2名1チームで参加するワークショップ「Young Lotus Workshop (以下YLW)」は、3日間に渡るワークショップと作品コンペで構成されています。毎年3月にタイ・パタヤで開催されるADFEST (アジア太平洋広告祭) に併催という形で実施されています。

今年は3月19～21日にADFESTが開催され、それに先立つ形でYLWが3月17～19日に行われました。

全広連では、今年も国内選考を実施し、日本代表2名をYLW本選へ送り出しました。今号では日本代表チームが決定するまでの国内選考の様子をレポートします。

一次選考には121チームが挑戦

一次選考へは121チームが参加しました。今回の課題は「20代の若者が金融を前向きに捉え、自信をもって向き合えるアイデア」という難易度の高いテーマでした。各チームはそれぞれの視点から課題解決につながるアイデアを作品として提出。その後、1月23日に7名の審査員による厳正な審査が行われ、最終選考へ進むファイナリスト5チームが選出されました。



真剣な審査の様子

PreADFESTで ファイナリスト5チームを発表!

2月2日には、最終選考に進むファイナリストチームを発表するイベント、PreADFEST 2026が東京・日比谷で開催されました。このイベントは、ファイナリストが発表されるだけでなく、提出されたすべての作品が会場に掲示され、来場者は全応募作品を自由に閲覧できます。また審査員もこの場に参加するため、自分たちの作品について直接アドバイスを聞くことができる貴重な機会になっています。

イベントでは、まずADFESTとPreADFESTの説明、一次選考の課題解説が行われ、その後、最終選考に進むファイナリストが1チームずつ発表されました。各チームには審査員から選出理由が伝えられ、前年の日本代表チームが制作した盾と副賞目録が贈られました。審査員が「なぜこの作品が選ばれたのか?」というポイントを説明した際、選ばれた参加者が神妙に頷きながら耳を傾ける姿が印象的でした。

ファイナリストに選ばれた5チームは、「お互いが切磋琢磨しながら悩んで選んだアイデアだったので、このような形で表彰していただくことができると嬉しいです。最終選考も二人で話し合いながら頑張ります!」と最終選考への意気込みを語りました。

イベント終了後も多くの参加者が会場に残り、審査員へ自分の作品をパソコンで見せたりして、積極的に質問し、意見を求める姿が会場のあちこちで見られました。

今回のPreADFESTには約230名の選考参加者や関係者が来場し、大変熱気にあふれたイベントとなりました。



審査員に意見をもらう参加者

最終選考～質疑応答は『打ち返し力』が大切!～

後日ファイナリスト5チームには、新たな課題「アニメや漫画が大好きなティーンエイジャーがフィクションと現実を区別し、他者と自分自身を尊重する大人へ成長するためのアイデア」が提示され、それぞれがアイデアを提出しました。

2月12日、最終選考が行われ、YLW本選と同様の形式で、各チームが審査員に対してプレゼンテーションを実施。プレゼンおよびその後の質疑応答はすべて英語で行われました。鋭い質問が次々と飛び交う中、回答に苦しい場面も見られましたが、参加者たちは丁寧に自分たちの考えを伝えていました。すべてのプレゼンと質疑応答が終了した後、その場で審査が行われました。



最終選考は審査員の前でプレゼン

優勝チームの発表を目前に控え、選考会場の緊張感が最高潮に達する中、各審査員がプレゼンを終えた各チームに向けて、特に質疑応答の姿勢について力強い講評コメントが送られました。

審査員からまず強調されたのは、「自信を持って堂々と答えること」の大切さです。

「質問の英語がすぐに分からなくても、「Sorry」と言う必要はなく堂々としていい」英語での質疑応答に戸惑っても、萎縮する必要はないとのメッセージが伝えられました。さらに、質問への向き合い方についても「質問に対して、『つまりこういうことですよ』と整理し、自分のフィールドに引き寄せるくらい自信を持って答えてほしい」と具体的にアドバイス。また、「審査員も人間。「なるほど!」と納得させることができればそれでOK」と、審査員はプレゼンの完成度だけでなく、発表者がいかに自分のアイデアを理解し、信じているかを見ていると

伝えました。

質疑応答の本質についても印象的な言葉が続きました。「質疑応答はあくまでサポーターングクエスト。もし躓いたとしても、それは自分のアイデアをさらに伝えるチャンスであり、アピールの場だと思ってほしい」

最後に、代表に選ばれるチームに向けて。選ばれてから本番までの約1か月という短い期間で、どんな質問でも打ち返せるようになる「打ち返し力」を身につけることが重要だと伝え、代表チームが発表されました。

日本代表チーム決定!

今年のYLW日本代表に選ばれた岩井拓諒さんと津野太希さん(ともに株電通)は、全121チームから勝ち上がった喜びと本選に挑む意気込みを次のように話してくれました。

「この度は日本代表に選出していただきありがとうございます。本戦でも楽しむことを忘れず課題に真摯に向き合ってきます!」(岩井さん)

「日本代表に選出いただき大変光栄です。本戦では国内選考で得た学びを糧に、限られた時間の中で最大限のアイデアを出せるように努力してきます!」(津野さん)

自分たちが選ばれるとは思っていなかった、と少し恐縮した表情を見せていた二人。パタヤではワークショップを通して多くのことを学び、海外の仲間たちと貴重な時間を過ごしてくれることでしょう。



岩井拓諒さん



津野太希さん

Summer号ではADFESTとYLW本選のレポートを掲載

本号が発行される4月は、すでにADFESTは閉幕し、YLW日本代表の戦いも終了しています。次号Summer号でADFESTとYLWの報告記事を掲載予定です。本選でもがんばれば日本代表チーム! (3月13日現在)

最後に、一次選考・最終選考ともに難しい課題に取り組んだ参加者の皆さん、本当にお疲れさまでした。

各地広告協会の動き (2025年/2026年)

秋田 秋田広告協会 「秋田広告セミナー」開催

秋田広告協会は昨年10月27日、秋田市中通のイヤタカを会場に「秋田広告セミナー」を開催した。協会の会員ら約100人が講演を通じ、感情を動かす広告づくりの重要性や、今後の情報発信のターゲットについて学んだ。

「地域から人を動かすプロモーションの今」と題して、CM制作などを手がけるPOPS(東京都)の田中淳一クリエイティブディレクターが講演。田中氏は、CMを通してブランディングに力を入れた結果、利益を伸ばした企業や自治体の事例を紹介。「物を買う時は理性ではなく感情で動く。情報が氾濫する中で最も重要なのは、感情を動かす情報発信だ」と力説した。

特に、地域や中小企業のブランディングにおいては「ターゲットの見極め」が重要と指摘。今後は、社会貢献や社会問題に関心が高い「Z世代」と呼ばれる若年層が消費の中心になるとして、「社会課題へ取り組む企業の姿勢が収益性に直結してくるため、消費者にはどんな社会課題を解決する企業なのかを示すことが重要」と話した。

講演後は、田中氏から県内で制作した新聞広告やテレビCM、動画広告の作品について講評をもらう時間も設けた。より良い作品にするためのアドバイスを受け、参加者たちは刺激を受けた様子だった。



会員ら約100人が参加し学びを深めた「秋田広告セミナー」

山形 山形広告協会 共感得る広告展開 考察

山形広告協会(会長・佐藤秀之山形新聞社長)は2月12日、山形市の山形グランドホテルで「山形広告セミナー」を開催した。消費者の共感を得る広告コミュニケーションの展開などについて、事例を基に考察を深めた。会員企業社員や一般聴講者約100人が参加した。

日産自動車日本マーケティング本部副本部長の大谷由希子氏は、過去から現在にかけて話題を呼んだ日産の広告キャンペーンを振り返り、「他のやらぬことをやる」という同社のDNAを踏襲しつつ時代に合わせて戦略を転換してきた経緯などを紹介。歌手の矢沢永吉さんを起用した「やっちゃえ、日産」のシリーズを通じ好感度が上昇し、その結果「電気自動車、自動運転といえば日産というイメージが定着した」と成果を強調した。「技術を経験価値として伝えるマーケティング」を意図した軽自動車「ルークス」や「サクラ」のCMなど最近の動向も説明した。

dentsu JapanグロースオフィサーでCMプランナーの澤本嘉光氏は「視聴者にとってCMはそもそも邪魔なもの。見てもらうための工夫や努力が大事」と述べ、テレビCMなど動画広告の好事例について解説した。



日産の広告キャンペーンについて語る大谷氏

大阪 第73回近畿ブロック会議/研修会 昭和100年広告・モノ作りを体験!

大阪広告協会の主幹により、第73回全広連近畿ブロック会議が2025年11月19日に開催された。「昭和100年の魅力を体験し再発見!そしてミライへ」をテーマに、京阪神の3協会から会員が集結。2025年が昭和換算で100年の節目にあたることから、広告の歩みを振り返り次世代へのヒントを探るプログラムが実施された。

フィールドワークでは「たこ焼きの食品サンプル製作」を体験。大阪の食文化に触れつつ、昭和日本の緻密なものづくり精神を体感した。午後はアドミュージアム東京の副館長・浜朋子氏が登壇。膨大なアーカイブから貴重な映像や写真を紐解き、当時の消費者の欲望や社会背景を解説した。懐かしいCMが紹介されるたびに、会場には感嘆の声が響いた。

続くクイズセッションは、MBS福島暢啓アナの進行で展開。懐かしのキャラクターやコピーを通じ、当時の時代背景を読み解く「時代考察」としての側面が強い内容となった。また「買取福ちゃん」の協力により、事務局長らが持参した昭和の骨董品を鑑定。予想外の高額査定に驚く場面も見られた。

参加した若手会員は「逆に新しい」と驚き、ベテラン会員は「懐かしい」と語るなど、世代を超えた交流が生まれ、研修会は盛況のうちに幕を閉じた。



昭和広告を学ぶ参加者



結束力抜群! 京都・神戸・大阪の会員が大集結

広告の可能性は 十人十色



JAPAN ADVERTISING FEDERATION IN SHIZUOKA 2026

第74回全日本広告連盟静岡大会 2026年 5月13日(水) グランシップ

主催: 第74回全日本広告連盟大会組織委員会 公益社団法人 全日本広告連盟



TOPICS

第14回全広連日本宣伝賞 決定

第14回「全広連日本宣伝賞」選考委員会において、各賞が決定しました。贈賞は5月13日開催の「第74回全日本広告連盟静岡大会」(於 グランシップ[ホール大地]) 式典内で行います。受賞者は右記のとおりです。

- 松下賞 似鳥昭雄氏(株ニトリホールディングス 代表取締役会長兼CEO)
- 正力賞 矢内廣氏(びあ株 代表取締役社長)
- 吉田賞 田中里沙氏(学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学 学長)
- 山名賞 石岡怜子氏(石岡怜子デザインオフィス 主宰 アートディレクター)
- 特別賞 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

第74回全日本広告連盟静岡大会 いよいよ5月に開催です!

全広連 

来る5月13日(水)・14日(木)に第74回全広連静岡大会が開催されます。テーマは「広告の可能性は十人十色」。ぜひ皆様ご参加ください!

- 【主 催】第74回全日本広告連盟静岡大会組織委員会 【内 容】5月13日(水)…全広連日本宣伝賞・鈴木三郎助全広連地域広告大賞の贈賞
公益社団法人 全日本広告連盟 記念講演「広告とコミュニケーション」(明治大教授齋藤孝氏)
- 【日 時】令和8年5月13日(水)・14日(木) 懇親会
- 【会 場】グランシップ[ホール大地](静岡市) 5月14日(木)…視察・見学会、親睦ゴルフ会

令和8年「広告界合同年賀会」開催

全広連ほか広告業界団体29団体の共催で、令和8年「広告界合同年賀会」を1月7日に帝国ホテル東京で開催し、1,383名が参加しました。冒頭に全広連の大平明理事長が乾杯のあいさつを行い、和やかに新年の親睦が図られました。

INFORMATION

事務局長就任 [順不同・敬称略]

- 金 沢 栗谷公士(株北國新聞社 地域ビジネス局次長 地域ビジネス部長) 1/26付
- 長 崎 溝口貴史(株長崎国際テレビ 営業編成局次長兼営業部長) 3/1付
- 鹿児島 弓場賢一郎(株電通九州 鹿児島支社支社長) 1/1付

新入会員社紹介 [敬称略]

- | | |
|---|---|
| <p>全広連
[賛助会員]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■株ADKホールディングス ■株新東通信 ■メイシス(株) | <p>福 岡</p> <ul style="list-style-type: none"> ■株QTnet デジタルエージェンシー事業部長 平良文 ■株久原本家グループエージェンシー 社長 執行役員 萩原稔 ■株クラフティア 理事 総務部長 伊東貴史 ■ラブエフエム国際放送(株)
代表取締役社長 宮崎泰
営業企画本部 副本部長 宮原康介 ■株ランニング 取締役プロデューサー 助野博一 |
| <p>全北海道</p> <ul style="list-style-type: none"> ■株イースト・デイリー札幌本社 代表取締役社長 前田基貴 | <p>鹿 児 島</p> <ul style="list-style-type: none"> ■洲上印刷(株) 代表取締役社長 門田晶子 |
| <p>東 京</p> <ul style="list-style-type: none"> ■株ジーピーオンライン 常務取締役 鈴木義宏 | |
| <p>神 戸</p> <ul style="list-style-type: none"> ■日本管財(株)
取締役上級執行役員 森本和彦
営業統括本部 西日本開発営業部 佐藤信行
営業統括本部 部長 藤澤研二 | |

【お 願 い】 人事異動などによる会員の交代や役職の変更等が生じ、機関誌「全広連」の発送先が変更になった場合は所属広告協会事務局へご連絡をお願いします。

全広連の活動はウェブサイトでご覧になれます。 